

平成 23 年度 腎・尿路・泌尿器学コース 泌尿器学 再現問題

問1～問30：平成22年度の問題と全く同じ

問31 下部尿路症状について説明し、それらの症状を呈す疾患を挙げよ。

問32 前立腺肥大症の検査方法と外科的治療について述べよ。

問33 発熱をきたす疾患について述べよ。

問34 膀胱上皮内癌の診断と治療について述べよ。

問 35 転移性腎細胞癌に対する治療法について述べよ。

平成 23 年度 泌尿器 解答例(記述のみ)

問 1～30：省略

- 問 31 下部尿路症状は、蓄尿症状・排尿症状・排尿後症状に大別され、それぞれ以下の症状を示す。
- 蓄尿症状…頻尿(昼間・夜間)、切迫性尿失禁、尿意切迫感、腹圧性尿失禁
- 排尿症状…尿勢低下、尿線途絶、腹圧排尿、排尿遅延
- 排尿後症状…残尿感、排尿後尿滴下

疾患：前立腺肥大症、神経因性膀胱、膀胱瘤、過活動膀胱、低活動膀胱

- 問 32 ・検査方法

尿検査	尿路感染の有無、血尿の有無
血液検査	血清クレアチニンによる腎機能障害の有無
直腸検査	大きさ、中心溝、弾力、表面、境界など
超音波検査	推定重量、残尿量、肥大
尿流測定	排尿障害の程度の測定
残尿検査	残尿量
PSA 検査	前立腺がんとの鑑別

・外科的治療

内視鏡的切除	経尿道的前立腺切除術(TUR-P)
開腹切除	前立腺被膜下摘除術
低侵襲治療	直視下レーザー前立腺摘除術(HoLEP) 前立腺組織内レーザー凝固術 経尿道的マイクロ波高温療法 尿道ステント

- 問 33 急性腎盂腎炎、急性前立腺炎、精巣炎、精巣上体

- 問 34 尿細胞診、超音波検査、画像検査(CT、MRI)、経静脈性尿路造影(IVU)で膀胱腫瘍の有無を確認し、膀胱鏡検査で上皮内癌(CIS)を確定診断する。
- 治療は、経尿道的膀胱腫瘍摘除術(TURBT)で切除を行い、膀胱内に BCG・抗がん剤を注入する。
- CIS の範囲・レベルによっては膀胱全摘除術を適応する。

- 問 35 免疫療法：インターフェロン α (IFN α)、インターロイキン-2(IL-2)
- 分子標的薬：ソラフェニブ(ネクサバル®)、スニチニブ(スーテント®)
- 現在、分子標的薬が治療の第一選択薬である。